

研磨石を`素材、に活用

自然と人工の調和目指し商品開発

国広産業株式会社 代表取締役
影石 崇さん



金属やアクセサリーなどを磨くバレル研磨に用いられる研磨石を製造し、国内シェアの約70%を占める国広産業株式会社(葛城市新村・影石崇代表取締役)は、研磨石を新しい`素材、として活用したスマートフォン用のスピーカーを発売した。「ストーンで世界を彩り豊かに」をビジョンに掲げ、自社で製造した石で、暮らしや生活を豊かにする未来を創造する影石社長に、開発や今後の展開についての話を聞いた。

葛城市 国広産業株式会社

「ストーンで世界を彩り豊かに」

「バレル研磨というのはどのようなものですか。」

酒樽のような形状の容器の中で研磨するので、バレル研磨と言われています。その容器に研磨石と、磨きたい対象物「ワーク」を大量に入れます。そして水を入れて回転させると、中でワークと石が削り合って、表面を処理するという技術になります。

この他にも研磨の種類はいろいろありますが、このバレル研磨は、一度に大量処理ができることで、全て同一の品質に仕上げることでできるのが特徴です。

創業の昭和47(1972)年は高度成長期で、大量生産、大量消費という時代の中、この研磨石を作る会社として父が設立しました。

「デザインチームを発足させた狙いは。」

私の中で研磨石以外に何か新しいものづくりができないかということとをずっと考えていました。そうした時、東京で開催された新価値創造展に研磨石を出展しました。しかしそこには、バレル業界やそれを使っている業界の方はほとんど来られなかったんですが、デザイナーさんや建築家の方に手に取っていただき「今まで見たことがない素材」「新しい」といった意見をもらいました。

業界が変わると見え方が変わることにはヒントを得て「研磨石の素材を違った切り口でどう生かしていくか」という必要性に気がきました。

それじゃあこの素材を生かしたデザインは何なのかというところで、外部のデザイナーさんにも定期的に来ていただき、そこから内製化していくという動きの中で、今のデザイン開発部というチームを立ち上げました。

「そこで生まれたのが石のスピーカーですか。」

まずは市場調査の意味も兼ねて、どういったものが売れるのか、またうちのこの石の素材感がお客さまに通用するのか検証してみよう、という試みから、ガジェットに注目しました。今は誰もがスマホを持っていますし、それならその音楽を聞けるスピーカーを作ってみようとなりました。

そしてスピーカーについて調べてみると、木製やプラスチック製はあるが、人工石(研磨石)はないことがわかり、これなら面白いんじゃないかといった経緯から今回のスピーカーを販売させていただきました。

「石を加工するのではなく、スピーカーを作るとなると完成までに苦労されたのでは。」

研磨石の業界というのは、磨く対象物が電子部品や自動車部品といった精密な部品を磨くため品質要求というものが非常に高くなっています。例えば、研磨石には気孔が入る場合があります。それは多少大きくてもバレルの中で研磨するのにはあまり問題になりません。

しかしそれが一般消費者に使っていただくものとなると、多少の気孔やバリ(出っ張りやギザギザ)というのは、デザイン性を損ない外観の印象も良くないものになります。そのため気孔を無くして欠けもなくす。そういった品質を高めることにしました。

社内で見え出し合い石で作った置物ではなく、機能性を持たせたものにしようという方向から、ガジェットに注目しました。今は誰もがスマホを持っていますし、それならその音楽を聞けるスピーカーを作ってみようとなりました。

「機能面で工夫されたところは。」

スピーカー内の反響パーツになります。このパーツが音を反射させて外に出していくという仕組みになっています。これが無いと、例えば洞窟内のような、残響的に音が籠って外に出ていかない状況になります。スピーカーとしての機能性をさらに高めていくことが一つのポイントでした。

「スピーカー以降の展開について教えていただけますか。」

まだ公表できるものではありませんが、第2段、第3段としての構想は考えています。石の素材で特に何を大事にしたいかとなると、五感に訴えるものづくりを意識して仕上げた石のスピーカー

感性です。そのため五感に訴えていくものを作っていく。そういう石を作っています。その第一段が今回のスピーカーで、「音」です。

私たちは、自然と人工の調和を目指しています。多くの人が、そこに石があるということを感じていないかと思っています。でも石は身近にある存在です。しかし外の石を、ただ室内に持ってきて置いたとしても違和感があります。ですので、石素材を使って人工的にデザインすることで、自然と人工が調和するインテリアとして馴染む特徴があります。

「今後の事業展開などについて。」

事業としては、国内シェアの約70%を占めている研磨石事業が本業です。磨く対象物というのは時計の部品やアクセサリー、さらにはデニムとさまざまです。ここは無くならない事業ですし、

素材というものを研磨して、新しい価値を生み出していく。そういう石を作っています。そういうのが既存事業です。

それに加え、これまで培ってきた歴史や技術がありますから、その素材を生かしたものづくり。一般消費者の人たちに気に入ってもらえるような、まずはデスクインテリア、近くで楽しんでいただける商品展開をしていきたいと考えています。

私たちは「ストーンで世界を彩り豊かに」というビジョンを掲げています。これは、研磨石で金属部品や繊維を磨き、これによって暮らしが豊かに快適に便利になっていきます。そして今回の事業では、インテリアといった、普段の生活や暮らしを豊かに、趣(おもむき)のあるものにしていきます。ストーンで世界を彩り豊かに、そういう風に貢献していきたいと考えています。



研磨石



五感に訴えるものづくりを意識して仕上げた石のスピーカー



自然と身近にある商品を目指し、他にもさまざまな商品を開発